松浦和美さん

参壽惠本舗

78歳

プラチナに達する!
あなたも誰でも
安定収入を得る秘訣

●会社と製品に確信を得てから伝える
●空いている時間を上手く使って活動する
●会社やリーダーのサポートも上手に活用する

松浦和美さんは、ご主人と2人で飲食店「あさ美」を29年営業している。常連客であるトップリーダーの小林典子さんからの紹介で参壽惠本舗と出会い、ビジネスを開始した。松浦さんの飾らない人柄に魅力を感じて、多くの製品愛用者が生まれている。コロナ禍において飲食店は大きな打撃を受けているが、「参壽惠本舗の収入があって本当に助かっています」と語る。生涯現役でビジネスを続けて、若い世代にも魅力を伝えていきたいと決意を固めている。

飲食店をご主人と29年営業 アットホームな雰囲気が好評

松浦さんは幼少期に「車掌と歌手になりたい」と夢見ていた。その夢の通りにバス会社に就職して、バスの車掌になった。1960年代頃は、バスに車掌がいるのが当たり前で、女性のあこがれの職業だった時代である。バス会社では10年勤務した。

28歳のとき、茨城県水戸市で飲食店を開店した。「お酒は飲めないのですが、人が集まる飲食店のにぎやかな雰囲気が好きなんです」と語る。多くの常連客が集まる繁盛店になり、最盛期には4店舗に広がった。

1周年・5周年・10周年など、節目のときには有名歌手を招いて、盛大にパーティを開催した。よく有名歌手が来店していた縁もあって、「私のオリジナル楽曲を発売したこともあります」という。幼少期の「歌手になりたい」という夢も叶えられた。

その後、和食の板前であるご主人とともに、和食店「あさ美」を1992年にオープン。ご主人の目利きで仕入れた鮮魚のお刺身と釜めしが名物料理だ。また、松浦さんの飾らない人柄とアットホームな雰囲気も好評で、多くの常連客ができた。和食店は現在まで29年、営業を続けている。

「オープン当初から通い続けてくださっているお客さんもいるので、本当にありがたいですね」

体感を得られる製品のためついお話したくなる

14年12月、和食店の常連客である小林典子さんから、参壽惠本舗のオタネニンジン果実エキスのサプリメントを勧められた。

最初は「お付き合いで登録しました」という軽い気持ちだったが、実際に飲んでみると体調が良くなったため、製品を愛用するようになった。ただ、仕事として取り組むつもりはなかったという。

「ずっと飲食店を経営しているので、ネットワークビジネスに誘われることも多かったです。何度か関わったこともありますが、あまり良い経験にはならなかったので……」

その考えは、参壽惠本舗のセミナーに参加して大きく変わった。初めて瀬井穣治社長に会ったとき、「とても誠実な方だと感じました。いままでの会社とは違うかも知れない」と感じたという。

セミナー後の食事会を「あさ美」で行ったことで、ご主人も瀬井社長を気に入って「僕もオタネニンジンのサプリメントを飲むよ」と言ってくれた。

それから積極的にサプリメントを伝えるようになった。和食店は昼夜に営業しているため、営業時間外に友人・知人へと伝えていった。また、和食店の常連客にも、サプリメントが伝わっていったという。

「お伝えした方から『元気になりました』と聞くと、とても嬉しくなります。体感を得られる製品だと自信があるので、誰にでもついお話したくなってしまいますね」

最優秀新規リクルート賞を4年連続で受賞

松浦さんは登録から1年で、上位タイトルのプラチナを達成した。さらに、参壽惠本舗の年間表彰で「最優秀新規リクルート賞」を16~19年の4年連続で受賞した。

大きな実績を挙げることができた要因として、「私の力ではありません。瀬井社長と小林さんのサポートのおかげです」と感謝の気持ちでいっぱいだ。

例えば、離れた地域の人にサプリメントを伝えたいという場合でも、瀬井社長や会社スタッフが駆けつけてくれるという。

「そのおかげでいま、静岡県と茨城県水戸市でグループが伸び始めています」

そしてビジネスを始めてから現在まで、トップリーダーの小林さんが進め方を教えてくれた。「おんぶにだっこ」に加えて、肩車もしてもらうほどですね」と笑う。

親子で仕事できるようになることが楽しみ

昨年からのコロナ禍で、和食店は大きな打撃を受けた。緊急事態宣言の発出によって、酒類を提供できなかったため、夜の営業を休止するなどの対応を迫られた。

「参壽惠本舗のビジネスで収入を得られていたので、本当に助かりました」

そこで、和食店にメンバーやゲストを集めて、小人数の食事会を開始した。瀬井社長も参加して、毎月開催している。メンバーと交流を深めることで、ビジネスの活性化にもつながっている。

最近では、松浦さんの息子さんもビジネスに関心を示しているという。「親子で仕事できるようになるのが楽しみです」と夢が広がっている。

「私が永遠の眠りにつくまで、参壽惠本舗の仕事をやりたいです(笑)。おかげさまで身体は元気ですので、ゴルフやカラオケも楽しんでいます。飲食店が忙しくて夫と旅行に出かけたことがないので、いつか2人で行けたらいいですね」

コロナ禍でも収入を得られて本当に良かった

ご主人の武さん(78歳)

茨城県水戸市で飲食店を経営しているメンバーさん